

GU'DAY

群馬大学情報誌
[グッデイ]



vol.5

2007 • Autumn

本年4月、太田に 新キャンパス開設

生産システム工学科と大学院
工学研究科生産システム
工学専攻を設置

生産システム工学専攻発足開講式
であいさつをする鈴木学長(右)式
典出席者(左下) 来年完成予定の
新キャンパスイメージ図(右下)



荒牧キャンパス遊歩道

「GU'DAY」は、「GOOD DAY」の表音
(日常のあいさつ=こんにちわ・さようなら)
で、「地域とのふれあい・コミュニケーション」
を示すとともに、「GU(Gunma
University)のDAY(時代)」も意味します。

2 GU'DAY TALK

「志村尚子氏に聞く」
国際化をテーマに
独自の大学理念を構築する

4 CAMPUS WATCHING

貴重な自然を地域に開放
「荒牧キャンパス遊歩道」

6 TOPICS

- ベストティーチャー賞
- 附属病院に院内保育所開園
- 重粒子線照射施設着工
- 太田キャンパス開設

8 GUNDAI 最先端

産学連携による理系専門英語の実践
型教育

10 ひらく・むすぶ・地域と大学

「附属病院の地域連携・地域開放・産
学官連携」
● 山間部からの患者へリ搬送
● 病院施設見学会
● 腫瘍センター設置

12 すぼと散策

東京オフィスとその周辺
下町を舞台に
都内企業へ本学をアピールする
先端基地

13 大学遺産

全国的にも例がないおびただしい
数の染料コレクション

14 あのとときGUNDAI

全国初めての社会情報学部創立の
ころ

GU'DAY

グッデイ・トーク／志村尚子氏に聞く (聞き手／学長 鈴木 守)

TALK

✓は、パレスチナ対イスラエルの紛争、欧州ではユーゴ問題などに携わりました。たびたび訪れた中東では、パレスチナを占領したイスラエルと、東側の地区とガザに押し込められたパレスチナとの間に衝突が頻繁にありました。国連職員の立場としては、どちらの側に立つこともできません。しかし、個人的にはまったく中立な人間なんていないと思います。日本人は比較的弱い者びいきですよ。明らかにイスラエルは強くて、パレスチナは弱い。しかも、ヨーロッパのイスラエル系の人たちは、かつてそこが自分たちの地だったと強調するけれど、何千年かの空白がある。

解決しえない問題です。

外国語を学ぶ前に 日本語の基礎を

学長 そういった中で仕事を
して、日本人としてのアイ
デンティティを意識する



志村 尚子 (しむら ひさこ)

【略歴】1934年大分生まれ。1958年津田塾大学学芸学部英文学科卒。同年米国に留学し、翌59年トレド大学(米国オハイオ州)修士課程修了。同年アイオワ州立大学政治学部研究助手。1962年ネバダ州立大学政治学部講師。67年セントラル・ミシガン大学(州立)政治学部助教授。1970年国際連合に入り、平和維持活動局アジア中東部長、ヨーロッパ中南米部部長などを歴任。1995年帰国し、津田塾大学学芸学部国際関係学科教授、翌96年津田塾大学第8代学長。2004年退職し、顧問となる。現在、群馬大学経営協議会委員。

聞き手 学長 鈴木 守

ことはありましたか？
志村 国連職員の立場はニュー
トラル。意識しないように
しました。しかし、20数年間
日本で暮らしたわけですが
ら、どこかに日本人らしさが
出ていたでしょうね。
学長 日本人には煮え切らな

い面もあるけれども、日本文
化をうまく利用すれば、競争
の現代社会を中和し、平和維
持にも役立つ面があるのでは
ないでしょうか。だから留学
生には、テクニカル面だけを
自国に持ち帰るのではなく、
同時に日本文化を身に付けて

まったく中立な 人間なんていない

学長 お忙しい中、ありがと
うございます。津田塾大学と
比べて群馬大学のイメージは
どうですか？
志村 父の仕事の関係で子ど

国際化をテーマに独自の大学理念を構築する

ものころ5度も転校したので
すが、中学2年から卒業まで
は前橋に住み、群馬女子師範
学校の附属に通っていたんで
すよ。さらにさかのぼると戦
時中は前橋に疎開していた時
期もありました。経営協議会
のメンバーとなって何十年か

ぶりで訪れると、私の覚えて
いた上毛三山や利根川に囲ま
れた風景もあり「なんて緑の
たくさんあるキャンパスなん
だろう」と思いました。東京
の大学は狭くて騒音だらけ、
群馬は理想的な大学のたらず
まいですよ。一方では、30カ

国246人の留学生が存在す
るのも素晴らしい。私が学長
を務めた津田塾大とは比較に
ならない大きな数字です。
学長 25年間もの長きにわた
り国連で平和維持問題にかか
わってきたという日本人には
めったにない経歴に驚きまし

た。歴史始まって以来戦争を
常に続けてきた人類にとって
の最終目標、平和維持という
仕事はどのようなものだった
のでしょうか？
志村 自分の力で平和を動か
すなどという大それたことは
できませんでしたが、中東で、

欲しい。ひたすらアグレッシブに走る世界を食い止めてもらいたい。私の願いです。

志村 まったく同感です。近ごろの大学は「国際競争に勝つ」などとよく言いますが、勝つことが目的ではありません。

学長 英語力向上のため幼児向け英語教育なども盛んですが、私は反対です。私たちのDNAの中には濃厚に日本語が組み込まれていて、それが思考のもとになり文化になっている。日本語を脇において、いきなり幼稚園から英語を学ぶのは、日本人としてのアイデンティティーを捨てるに等しい。群大でも教育学部を通じて、そういう問題を地域に発信しています。脳科学を専攻している小澤滯司副学長



は、小学校5年くらいから中学と連続性を持つカタチで英語を学ぶのがいい、という意見です。まず、日本人としてのアイデンティティーを大切にしながら英語を学ぶのがいいと思います。

志村 その通りです。小学校やもつと幼いころから、親の海外出張などで英語にふれ始めると、日本語とも英語ともつかない言語になってしまいうケースも多い。まず、しっかりとした日本語の基礎を身に付ける。英語はそれからでも遅くありません。

Act locally, think globally!

志村 留学生が多いことから開かれた大学だと思えます

が、国際交流について、どのような信念をお持ちですか？

学長 かつてSARS（重症急性呼吸器症候群）が流行したとき、WHO（世界保健機関）のある職員がベトナムに赴き、命がけで闘った。その結果、彼自身が命を落としてしまう。彼の遺言が“Act locally, think globally!”（地域に根ざし、地球規模で考える）。“ベトナムという小国で一生懸命SARS対策を実行する。その結果をモデルとし、ほかの東南アジア諸国がSARSのまん延を防いだ。命を刻んだ、重い言葉です。群大もかくありたい、と思います。国際交流について学生に対するアドバイスをお願いしますか？

独自の理念を構築したい

志村 津田塾大では留学生は少ないものの、多くの学生は留学生が孤立しないよう、共同のプロジェクトなどを立ち上げ積極的に交流しています。健全な傾向ではないでしょうか。そして、世界中のいろいろな難しい地域に積極的に飛び出し、さまざまな専門

分野で活躍する卒業生も数多くいます。彼女たちは、厳しい状況を訴えることもなく、淡々と近況を報告してくる。困難に達しない状況で働いているにもかかわらず、当たり前のことをしていてというスタンスです。厳しい中でこそやりがいを持って国際交流できる姿は大切です。

学長 素晴

らしいですね。それは、建学の精神とか理念と関係しているのでしょうか。

志村 話は少し古くなりますが、戦時中、軍が津田塾の表札の上に軍の表札を付けたことがあります。するとある学生がはずして玉川上水に投げこんだ。その時の学長が進退を

かけて学生をかばったそうです。学長 建学の精神が、一人一人に行き渡っていたのでしよう。国立大学が法人化された今、時間もかかるでしょうが、こういった理念を構築することが群大にも必要。志村さんにもぜひ理念づくりに協力してほしいですね。



貴重な自然を地域に開放

〔荒牧キャンパス遊歩道〕

開かれた大学づくりは、21世紀における大学の大きな使命となっています。まず、群馬大学のことを地域住民に知ってもらうことがスタート。そのためには、キャンパスを訪ねてもらおうのが近道です。本学では一つの試みとして荒牧キャンパスに遊歩道の整備を進め、市民に開放しました。

教育学部、社会情報学部がある荒牧キャンパス周辺は、かつて利根川の河川敷で、敷島公園などと同様にアカマツの自然林が広がっていました。上毛大橋の開通をきっかけに近年、急速に住宅地や商業施設が開発された結果、残念ながら緑地の減少が進み、アカマツを中心とする自然環境が残された荒牧キャンパスは前橋市内にあって貴重な存在となりました。

一方、歩くことにより健康増進を進めている周辺自治会としても、自然と触れ合いながら安全に歩くことができる遊歩道の存在が待ち望まれていました。

こうした良好な自然環境をきちんと保全整備し、地域住民に開放するのが今回の試みです。

整備は、群馬大学環境方針（2006年2月制定）に基づき、群馬県環境・森林局林業振興課県産木材振興グループの指導を受けて進められました。環境保護にこだわって松枯れの被害等で倒木の危険のある樹木をチップ化し敷き詰めるといった工夫を施してあります。すべてが完成するとキャンパス内を1周し、総延長

は約2キロとなり、4月25日の竣工式典時点で完成、開放されたのは、キャンパス西門から南へ向かい野球部グラウンドレフト後方付近までのコース、470メートルほどです。

実際に歩いてみると、チップが敷き詰めてある遊歩道は軽い弾力があって、舗装道路の上を歩くより格段に歩きやすく、足腰への負担も少ないようです。日中、暑い時でも、木々が日陰をつくってくれるので、ひんやりとそう快。静寂の中であって、樹木の向こう側からは野球やテニスの練習に打ち込む学生の歓声が小さく聞こえてきます。林の西側に広がるのは、「群馬の代官山！」と異名をとる川原町や関根町の一角。まさに「ここだけは別世界」という気分でウォーキングを味わうことができます。実際、本学教員の調査によると、周辺と比較して荒牧キャンパス内はNO₂（二酸化チッ素）濃度が低くウォーキングにも適しているとのことです。

自然保全を第一に考え整備を進めているだけにヘビやハチへの注意はもちろんのこと、喫煙やごみ捨てなどマナーを守った上での利用が必要となります。周辺からは早くも遊歩道の延長を待ち望む声も挙がっているようです。遊歩道をきっかけに今まで機会のなかった荒牧キャンパスを訪れてみてはいかがでしょうか。



竣工式典での高木前橋市長（右）と鈴木学長



市民とともに歩き初め



手つかずのアカマツ林を整備

荒牧キャンパス イメージマップ



荒牧キャンパスがISO14001を認証取得

環境関連教育科目が課され、環境マインドを持った人材の育成に努めています。

本学では教養教育はもちろん、各学部で環境関連教育科目が課され、環境マインドを持った人材の育成に努めています。



認証登録証を手にする鈴木学長と谷本理事

2004年度の国立大学法人化に伴い、大学のブランド力アップが急がれる中、群馬大学では中期計画において環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証取得の方針を示しました。また、2005(平成17)年2月には京都議定書が発効したことから、教職員・学生が一体となって環境対策への取り組みを積極的に進めていたところです。

こうした中、認証機関の審査により、教



最優秀賞を受賞した江森英世准教授による公開模擬授業

公開模擬授業で最優秀賞決定

ベストティーチャー賞

群馬大学ベストティーチャー賞の最優秀賞が決定しました。これは、教育実践に顕著な成績をあげた教員に対して、その功績を表彰するとともに、公開模擬授業を通して本学の教員、学生に知ってもら

らうことで教員の意欲向上、そして大学教育の活性化を図ることを目的としたもの。5月7日には大学会館ミューズホールで最優秀賞の選考を兼ねた公開模擬授業を実施しました。

選考は、各学部等から推薦された優秀賞候補者11人の中から選ばれた最優秀賞候補者5人による公開模擬授業によって決定。学長、理事、学部長等で組織する審査委員会の審査で、最優秀賞1人、優秀賞11人を選出し、学長から表彰状及び副賞が授与されました。

授与式に続いて学長、受賞者を囲んでの茶話会が開催され、多くの学生、教職員が参加しました。受賞者は次のとおりです。

〔最優秀賞〕

教育学部准教授 江森英世

〔優秀賞〕

教育学部准教授 江森英世

(最優秀賞候補者)・社会情報

学部教授 寺石雅英(最優秀

賞候補者)・医学部保健学科准

教授 内田陽子(最優秀賞候

補者)・附属病院講師 廣村桂

樹(最優秀賞候補者)・工学研

究科准教授 天谷賢児(最優

秀賞候補者)・教育学部教授

河野庸介・医学系研究科教授

服部健司・医学系研究科准教

授 石井功・医学部保健学科

准教授 土橋邦生・工学研究科

准教授 弓仲康史・工学研究

科准教授 横内寛文



ベストティーチャー賞受賞者たち

附属病院に 院内保育所開園

子育て支援・女性の ための職場づくり

医学部附属病院が構内に設置した院内保育所が4月開園しました。一般公募により「ゆめの子保育園」と命名された保育所は、耐火建築2階建て、総面積244㎡。1階が一般保育室、2階が病児・病後児保育室となっています。

子育て支援や女性のための働きやすい職場づくりを目的とした院内保育所の設置は、数年前からの懸案事項。出産と同時にやむを得ず退職する看護師等の多い状況が続いていたのです。2002年に院内保育所設置検討委員会を立ち上げ、資金・設置場所・運営形態などの検討を続けようやく実現にこぎ着けました。現在、国立大学医学部附属病院の約8割で、院内保育所が設置されています。

ゆめの子保育園の対象となるのは、生後3カ月から6歳までの未就学児童で、定員は20人。当初12人でスタートし、現在(8月)は15人。年度内には定員に到達する予定です。

保育所の大きな特徴は、病院の敷地内にあるので、仕事



の合間に我が子の様子を窺えること。そして、もう一つは、看護師を常駐させ病児・病後児保育を行うこと。急変時には、小児科の医師が対応、安心して預けられるようになっていきます。病児・病後児保育は、他の保育所では、困難なケースが多く、子供が熱を出したかどうかでも仕事を休めないという時でも安心して子供を預け、仕事ができるという好評です。

現在、7時半から19時半までの運営ですが、将来的には保育時間の延長、土日保育の実施など、職場の多様な勤務体制に対応していく予定です。

がんを切らずに、短期間で治療

重粒子線照射施設着工

国内3カ所目、大病院初となる重粒子線照射施設の着工記念式が2月17日に開催されました。重粒子線照射施設は、「がんを切らずに短期間で治す」画期的な施設。がん死亡

者数が年々増加する中、本学はこれまで放射線腫瘍学・核医学領域で、先導的な役割を果たすべく取り組みしてきました。2004年度には放射線医学総合研究所と「小型重粒子線装置による治療法の高度化」に関する共同研究を開始、また21世紀COEプログラムに「加速器テクノロジーによる医学・生物研究」が採択されるなどの実績を持つ本学にとって、重粒子線による世界最先端の治療装置を備えた施設は、まさに念願のものです。

施設の概要は、鉄筋コンクリート一部鉄骨造り、地下1階地上2階建て、延べ面積6、280㎡。加速器室と治療室4室、PET・CT室等を備えています。これまでに関連施設を含めた施設設備や照射装置の契約を順調に進め、工事に

重粒子線照射施設着工記念式典



着手する段階までたどり着きました。

記念式は、学内外の関係者約260人を集め、群馬大学昭和キャンパスにある医学部保健学科ミレニアムホールで挙行。鈴木学長や関係者のあいさつや祝辞、講演に続き、辻井放射線医学総合研究所重粒子線治療センター長らが重粒子線治療の可能性について説明、参加者は熱心に聴講していました。

次に建設予定地において納入式、さらに学生食堂でレセプションと重粒子線照射施設の着工を和やかに祝いました。工事は現在順調に進んでいます。



重粒子線照射施設着工納入式

2007年4月、群馬大学4つ目となる太田キャンパスが新たに発進。新キャンパスには、工学部再編の一環として誕生した生産システム工学科と大学院工学研究科生産システム工学専攻を設置しました。



あいさつする 宝田工学研究科長

今すべての産業で材料、製品、デバイス等は高性能化・高機能化・高品質化が進み、そのため、独創的な商品や革新的な生産技術を生み出すことのできる技術者や研究者が求められています。このため、必要となるのが、幅広い基礎学問や基礎技術を基にした学際的な学問融合です。こうした背景から、機械・材料・電気電子・情報工学分野の基礎知識・先端技術・新技術などを教授し、独創的なものづくり人材の育成を図るため、新学科学・新専攻の開設に至りました。プロジェクトの統括リーダー育成を目指したハイレベルな教育内容となります。

太田市は、富士重工業をはじめ数々の製造業が立地する東日本有数のものづくり拠点。北関東自動車道の整備が進み、さらに今後の発展が予

想される中、群馬大学新キャンパス開設は、地域の企業や自治体からも大きな期待が寄せられています。

生産システム工学科には夜間主コースと昼間コースがあり、太田キャンパスが完成する2008年3月まで、夜間主コースは、太田市内の仮校舎を利用。昼間コースの学生は荒牧キャンパスで、大学院生は桐生キャンパスで学ぶことになりました。なお、2007年度の入学人数は、生産システム工学科88人（昼間51人、夜間37人）、大学院工学研究科生産システム工学専攻32人でした。

太田キャンパス開設

目指すは、ものづくりのリーダー育成

産学連携による 理系専門英語の実践型教育

GUNDAI

最先端

群馬大学工学部では、技術者や研究者としてワールドワイドに活躍できる人材を育成するため、英語教育の改革に取り組んでいます。この取組「産学連携による理系専門英語の実践型教育」は平成17～20年度の現代的教育ニーズを取り組み支援プログラムに選定されました。理系学生のための「使える英語」教育を紹介しましょう。

ポイントは、企業や研究の現場で 使える英語能力を持つ人材の育成

理系出身の技術者にとって、海外工場での勤務や海外企業との交渉など英語のコミュニケーション能力の重要性がクロージアアップされるようになってきました。また、研究者の場合でも論文の読み書きを英語で行うのはもちろん、国際学会では、英語によるプレゼンテーションが必須です。

このような英語によるコミュニケーションの必要性に対して、これまでの英語教育は文章の読解を主体としたもので、必ずしも実践的なものではありませんでした。実際に2002年に行われた卒業生アンケートでは、「語学関係の科目は国際コミュニケーション能力を身に付けるために役立ちましたか？」との質問に対して「はい」「どちらかといえばはい」合わせて19%に過ぎません。

こうした事情を受けて、「自ら発言することを出発点とする、英語によるプレゼンテーションを基軸とした正規授業」と「Listening, Speaking, Writingの反復による英語力涵養を旨とした課外オープントレーニングコース」を2005年度から工学部の専門英語教育システムに取り入れました。目標は、卒業後、企業での国際技術業務や大学院での研究活動などで、英語を用いて科学的・技術的内容を的確に相手に伝え、議論できる人材の育成です。

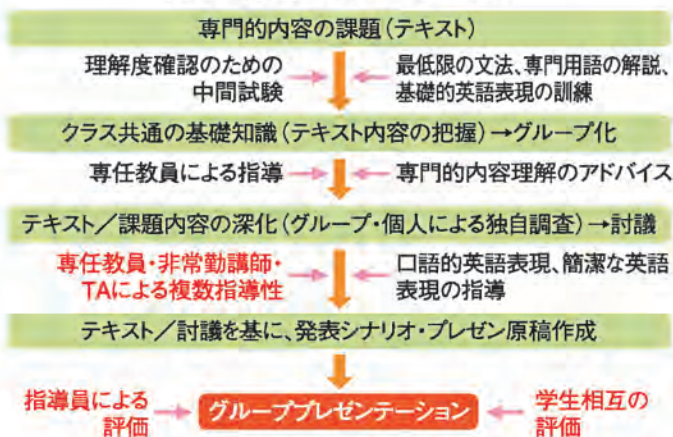
取り組みの柱は大きく分けて、SFM (Speaking First Method) と課外オープントレーニングの二つ。こうした英語教育手法は、現実に企業の中で実施されているものもあり、サンデン(株)をはじめとする企業の協力のもとで導入しました。また正規授業においては、企業の現場で英語を用いた仕事に携わってきた経験者を講師に招いています。

SFM授業と 課外オープントレーニング講座

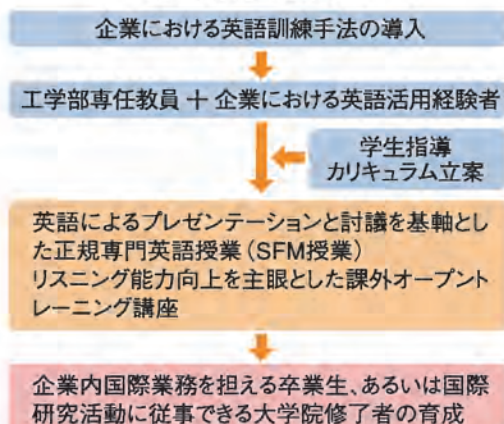
柱の一つ、SFMは、自分が持ち合わせている英語の知識だけで、まず自分の意見や新情報をSpeakingで提示する練習から始める方法。授業の基本パターンは、最初に専門ジャンルごとのテキストを基に最低限の文法や専門用語の解説、基礎的英語表現の訓練を行います。次にテキスト内容を把握できるよう指導。グループに分かれ、課題内容について議論する。議論を基に発表シナリオ、プレゼンテーション原稿を作成。最後にプレゼンター

の柱の一つ、SFMは、自分が持ち合わせている英語の知識だけで、まず自分の意見や新情報をSpeakingで提示する練習から始める方法。授業の基本パターンは、最初に専門ジャンルごとのテキストを基に最低限の文法や専門用語の解説、基礎的英語表現の訓練を行います。次にテキスト内容を把握できるよう指導。グループに分かれ、課題内容について議論する。議論を基に発表シナリオ、プレゼンテーション原稿を作成。最後にプレゼンター

〈SMF授業の基本パターン〉



〈人材育成の流れ〉





生の英語を体験する場＝デザインフェスタ（東京ビッグサイト）

最先端

基礎コースには、学科・学年を問わず参加することができます。

アドバンスコースは、学習スタイルは基礎コースと同様ですが、使用するテキストは学科ごとに専門的なシチュエーションを想定し、オリジナルの教材を専任教員や外国語教育部のNative Speakerが開発したものです。その内容は、実験室内での教員と学生、学生同士のディスカッションや国際会議でのディスカッションなどから構成されています。これには、



学生フィールドワーク

シヨンをを行い、指導員や学生相互の評価を加えるというものです。

一方、正規授業とは別に行う課外オーディントレーニング講座は、基礎コースとアドバンスコースを設定。中学2～3年レベルの市販教材を用いる基礎コースは、Listening、ロールプレイによるSpeaking、Writingの反復訓練を行います。



「授業をきっかけに使える英語を勉強していったほしい」と語るプロジェクトリーダーの篠塚和夫教授（群馬大学工学部応用化学・生物化学専攻）。

大学院生も参加が可能です。国際学会などで研究成果を発表する活動能力の向上が期待されます。

また学生たちに説得力があると評判なのが、企業技術者による特別講義の開催。「大学に入れば、英語はもう勉強しなくてよいだろう」と考える学生も多い中、技術者にとって英語によるプレゼンテーションやコミュニケーションがどれだけ必要とされているのか、状況把握に大いに役立っています。



SFM授業におけるシナリオ作り

外国語教育部とは？

2006年4月大学教育・学生支援機構創設に伴って、外国語教育の改善を図るべく、大学教育センター内に外国語教育部を設置しました。本教育部は、教養教育を主として、全学の外国語教育を担当していますが、「使える英語」という時代のニーズを背景に、目標は実践的英語教育です。現在Native Speaker 3人を含む4人の専任教員が所属しています。

2年目となる今年度は、学力差を考慮した習熟度別教育の試行、TOEIC受験の促進と対策、年2回のTOEIC TESTSの実施、さらに学生の自主的な学習を推進するためのeラーニングシステムの導入など、多様な事業を進めています。



〈講師〉
ペアリー・キース



〈准教授〉
新藤 一男



〈准教授〉
レイモンド・フグナム



〈准教授〉
エグジー・コントラス

附属病院の 地域連携・地域開放・産学官連携

山間部からの患者ヘリ搬送

速やかにして高度な治療、処置で患者を救う

医師の人材不足を理由に救急指定病院が減少を続ける中、群馬大学医学部附属病院では県内の病院や救急現場からのヘリコプター患者搬送を積極的に受け入れてきました。全診療科がそろい、ハイコオリティな医療活動が展開される群馬大学医学部附属病院のこうした活動は、多方面から注目を集めています。

その数は、2004年度12件、2005年度10件、20



06年度12件。クモ膜下出血や山中での事故による多発外傷といった、山間部の病院では対応しきれない多種多様な重症患者に対し良好な治療成績を上げています。

可能な限り早期の高度な治療や処置が必要とされることが多い重症患者は、より迅速に3次病院へ搬入しなければなりません。吾妻地区、尾瀬地区といった、救急車による搬送時間が1時間以上もかかるエリアからの搬入が、ヘリコプターを利用すれば15分程度に短縮されるのです。

さらに2007年1月から、ヘリコプターに医師が同乗するピックアップ方式によるドクターヘリの運用も可能な限り試みています。医師が現場に直行することで、患者搬送時の安全性が確保され、病院搬入後、スムーズに診断や治療を行うことが可能です。

今後も群馬県の地域性に即した安全で高度な救急医療を提供することを目標としています。

病院施設見学会

附属病院の先端医療にふれて安心感を持ってもらう

地域医療への貢献を基本方針の一つとする群馬大学医学部附属病院の目指すものは、地域に開かれた病院。大学病院が担っている医療の一端を理解してもらおうと2006（平成18）年度から地域住民を対象とする病院施設見学会を実施しています。2007年度は、4月に開院した中央診療棟、現在建設中の重粒子線照射施設をメインとし、第1回目を6月30日に実施しました。

ホームページ、県や近隣市町村の広報紙等による募集で集まったのは、10代から80代までの幅広い層から69人。参加者は、中央診療棟の放射線部、手術部、外来化学療法センターに設置された最先端の医療機器の数々について、また救急患者を搬送する屋上ヘリポ



ートや重粒子線照射施設等についても説明を受けました。計8カ所、3時間にわたる見学会は、敷居が高いと思われるが、大きな大学病院という存在を身近に感じてもらうきっかけにもなったようです。

「このような病院なら安心して医療が受けられる」とい

った感想から始まって、重粒子線治療への質問も数多く、附属病院の取り組みに、大きな関心を持っていただけたのではないのでしょうか。こうした見学会は、今後も年2回程度実施していく予定です。

リハビリ器具を体験する見学会参加者

群馬県における がん情報サービス向上に向けた地域懇話会



懇話会で講演する巨添国立がんセンター総長

腫瘍センター設置

都道府県がん診療 連携拠点病院とし ての役割を果たす

日本人の死亡原因のトップは、がん。にもかかわらず、がん検診率は欧米と比較して極端に低く、がん医療費も増大を続けています。がん治療にも地域間、病院間で格差があるのが現状です。また、治療法がなく、病院から見捨てられたと感じるがん難民も多く、医療事故や医療過誤報道による医療不信も高まりつつあります。

こうした現状を反映し、本人の意向を充分尊重して治療方法が選択できるがん医療を提供するなど、がん患者本位の医療を推進するため、2006年には、がん対策基本法が制定され、地域がん診療拠点病院が設置されました。県内では群馬大学附属病院を含め10病院が指定されましたが、中でも当院は、都道府県がん診療連携拠点病院として県全体のがん医療レベルの向上に努めることとなりました。その中心的な役割を担うのが、5月に設置された腫瘍センターです。

具体的にはまず地域がん登

録システムを構築し、がん罹患率、がん発見のプロセスや生存率といった多様な情報をデータ化します。そして得られた情報に基づき適切ながん対策を群馬県と共同して推進していくというものです。

データを蓄積し、がん検診による早期発見・治療の有効性を訴えるのはもちろん、患者側にもがんに関する知識をもってもらうため、がん相談支援センターや患者図書館の設置を積極的に推進していきます。

また、拠点病院を核に地域の病院と連携することで在宅医療ができる体制整備の一環として、地域連携クリニカルパス(治療計画書)の作成に着手しました。

同時に入院中早期から緩和ケアを実施し、退院後も最善の緩和ケアが受けられるようなシステムづくりも始まっています。

こうしたがん医療への取り組みを患者やその家族はもちろん、広く一般に知ってもらうため、がん懇話会などによる公開講座の開催も開始しました。(がん懇話会に関する問い合わせは、群馬大学医学部附属病院腫瘍センター ☎027・220・7927まで)

新潟県中越沖地震における 災害派遣医療チーム活動

7月16日に発生し、多数の傷病者が発生するなど甚大な被害を生じた新潟県中越沖地震(マグニチュード6.8)。本学医学部附属病院救急部は、災害派遣医療チーム(DMAT: Disaster Medical Assistance Teamの略)として出動しました。



DMATは、大地震や航空機・列車事故など災害急性期に被災地に駆けつけ、救出・救助部門と協力して救急治療を行うための災害派遣医療チームのことです。通常5人1組で、広域医療搬送、病院支援、現場での医療行為などを行います。

今回の活動が群馬県におけるDMATの初の派遣となりました。情報が錯綜する中、救急用ワゴン車に隊員5人が医療資材を積み込み被災地に出動。3年前の新潟中越地震に病院医療班を派遣した経験もあり、災害当日(7月16日)の16時ごろには早くも現地に到着し、現場での活動に携わることができました。

*マグニチュード: 地震の規模。M7以上: 大地震。M5.5~7: 中地震。M3.5~5: 小地震。M1.5~3: 微小地震。M7に近いと、条件によって大被害となる。

*急性期: 災害発生後72時間以内



船堀駅



タワーホール 船堀

すぽっと 散策

下町を舞台に 都内企業へ本学をアピールする先端基地 [東京オフィスとその周辺]

群馬大学東京オフィスがある「コラボ産学官プラザin TOKYO」は、都営新宿線船堀駅から徒歩2分、江戸川区の中心部に位置します。船堀駅周辺には、映画館もあるタワーホール船堀（区民ホール）や勤労福祉会館といった文化施設も点在しています。船堀は江戸川沿いの下町ですが、船堀駅が開業したのは1983年と遅く、かつては農村風景が広がっていたとか。

船堀駅には大きな金魚の絵が描かれています。それは江戸川区が愛知県弥富市、奈良県大和郡山市と並び、金魚の三大産地に数えられているため。江戸川を中心とした水運が発達していた時代からの伝統産業です。今でも船堀では金魚の競りが開かれ、他県からも業者が集まり、年に数百万匹もの金魚が取り引きされるそうです。

本学東京オフィスを開設したのは2004年。（株）キャンパスクリエイトと朝日信用金庫が設立した産学官連携組織「コラボ産学官」に参加しました。都内での産学連携、学生募集・入試活動・就職支援活動、教育研究、大学広報等の拠点です。

共有スペースである大ホールや大会議室を利用し、産学官をテーマに多くのイベントが開催されています。2007年3月27日には本学・コラボ産学官共催による「医工連携研究会」を実施しました。参加企業に対して、医療機器のユーザーである本学の教員の開発・改良ニーズをアピールし、医療機器・機材の開発につなげていくことを目的としたもの。逆に企業側のニーズに対して本学側から技術力・研究成果をアピールするイベントもあります。本学と都内企業をつなぐ場として東京オフィスの需要は拡大中です。



コラボ産学官プラザin TOKYO



▲3月に実施した医工連携研究会



GUNDAI

大学遺産

Heritage

全国的にも例がないおびただしい数の染料コレクション

染料コレクションは、群馬大学工学部の前身である桐生高等染織学校が創立された1915（大正4）年から1946（昭和21）年ころまでの約30年間に収集されたものです。

その多くはドイツやスイスからの天然繊維用の輸入染料で、集録染料数は4、312点。このように多数の染料をコレクションしている大学、事業所は全国でも類を見ません。織物の街・桐生に根ざした群馬大学工学部の成り立ちにふさわしい歴史と伝統を感じさせるコレクションです。その歴史を物語る荘厳な工学部同窓記念会館に展示されている様子から、かつての繊維産業全盛期の繁栄ぶりがしのべられます。



本コレクションは、発がん性物質を原料にしていることから現在では製造中止となった染料を多く含んでおり、染料の研究者にとつては貴重な資料です。こうした染料は75周年記念事業で一旦整理されましたが、90周年記念事業（2000年）の一環として検索システムの整備などを含めて再整理され、工学部同窓記念会館内の染料資料室に展示されました。本染料コレクションに登録されている全染料について、そのデータや、さらに研究目的の場合は染料の提供が可能となる場合もあります。興味のある方は、同記念会館内にある群馬大学工業会事務局まで（☎0277・22・7000）。



社会情報学部創立のころ



教養部の看板を下ろす増田部長(中央)と石川学長(右)、中村評議員=1993(平成5)年

教養部改革から 新学部構想の検討へ

教育学部、工学部、医学部に次ぐ群馬大学第4番目の学部、社会情報学部。設置されたのは1993(平成5)年と新しいが、その前には28年に及ぶ教養部の歴史があります。今回は、教養部から国立大学初の社会情報学部へと変遷していくころを振り返ります。

1965(昭和40)年に設置された教養部は学部ではなく、本学学生に対する教養教育を実施する責任部局でした。教養部のあり方を巡っては、1974(昭和49)年には教養学部構想、その後も人文社会科学を中心とした新学部構想など教養部内で検討が続けられました。やがてその動きは全学的なものとなり、1981(昭和56)年には社会科学部創設準備委員会が設立され、社会科学

4番目の 新学部誕生へ

1990(平成2)年には、社会科学部創設準備委員会が再

部構想へと進展。この構想と並行して教養部と工学部の一部改組を前提とした基礎自然科学部構想などの提案もなされました。しかし国の緊縮財政の影響もあって、こうした新学部構想は一旦すべて棚上げされました。膠着状態が続く1989(平成元)年、当時の前川正学長から試案として示されたのが、情報社会学部構想。社会情報学、環境情報学科、国際情報学科の3学科からなり、教養部教員全員が新学部へ移り、新学部を一般教育の責任部局とするというものでした。これをきっかけに検討が進むこととなります。



石川学長の筆による「社会情報学部」の看板を掲げる中村学部長(左)、石川学長(中央)、宇田川事務局長(右)

開されると、新学部名称は「社会情報学部」に変更。1992(平成4)年、群馬大学社会情報学部設置準備委員会及び同専門委員会が発足し、文部省(現・文部科学省)との折衝が続いた結果、12月には、社会情報学部の設置がようやく正式に認められました。専門委員会では人事、予算、広報、法規、施設、情報機器、教

務・厚生補導、教育課程、入学試験、図書・紀要の10委員会に分かれ、精力的な準備作業が進められたのです。初代学部長は中村喜美郎教授が選考され、入学試験要項、学部広報用パンフレット、学部案内なども完成、学部の諸規定も審議・承認され、1993(平成5)年10月1日の学部創設記念式典を迎え

ご宿泊、ご婚礼に、ご宴会、お食事に

ホテルメトロポリタン高崎
〒370-0849 高崎市八島町222番地
TEL.027-325-3311(代)

ISO14001 認証取得企業
SINCE 1902

地域でもっとも信頼される企業をめざして

OA機器・ファニチャー・サプライ・印章
店舗用什器・その他

株式会社 春木堂
HARUKIDO

本社/〒371-0855 前橋市問屋町1-9-7
TEL027-252-2345(代)
FAX027-252-2344
E-mail office@harukido.co.jp 担当 桑原・中島



あのとき

全国初めての

ることができました。

新学部の問題は多数ありましたが、何よりも第一に目指すものは、社会情報学部という新しい学部に対応しい学問研究・教育の成果を挙げ、社会情報学を樹立し、学部としてのアイデンティティーを確立することでした。

当時の学部構成を見てみましょう。社会情報学科1学科で、社会・情報行動、政策・行政情報、経済・経営情報の3つの履修コースがありました。学生定員は1学年100人、さらに3年次編入20人、これは現在も変わりません。当時から推薦、社会人、帰国子女、私費外国人留学生など多様な選抜方法の実施と学生の受け入れが特色の一つでした。

新学部発進 目まぐるしい日々

初めての入学生を迎えたのは1994(平成6)年4月。第1期生110人はもちろん、旧教養部から配置換えになった教員を中心に新任教員も交え、学部は活気に溢れました。

教職員たちは目まぐるしい日々を送りながらも数々の懸案事項解決に向けて動き出し

ます。まず沖田健吉2代目学部長のもと、「高度職業人の養成」を目標として、1997(平成9)年12月には大学院社会情報学研究所の設置が正式に決定。社会情報学を対象とした初の大学院として大きな注目を集めました。

続いて新学部棟の建設。場所については、現在の本部管理棟に隣接する学生ホールが最適との結論に達し、クラブサークル代表との話し合いを経て、学生ホールを撤去、建設工事が進められました。1997(平成9)年11月6日、落成記念式典。学部1期生たちの卒業になんとか間に合い、わずかながらも自分たちの学部棟を体験することができました。1995(平成7)年に社会



学部創設一周年記念講演会で講演する村上陽一郎教授(1994(平成6)年)



英国ダラム大学交換留学生との話らい

情報学部主催で行われた社会情報学シンポジウムで日本社会情報学会の設立が決まり、1998(平成10)年4月には学会事務局が本学部に内移されています。また、英国ダラム大学との交換留学生制度の発足、レフリー制度を導入した学部研究論集の発行など学部のアイデンティティーの確立を目指し、新学部創立後の数年は瞬く間に過ぎていきました。

ちなみに教養部廃止後の一般教育は、学長の下に大学教育協議会を置き、その下に教養教育運営委員会、さらにその下に専門委員会という形の実施体制をとりましたが、現在は更に改革が進んでいます。

MESSAGE

約半年ぶりのグッデイ5号です。この間にも群馬大学は日々変わり続けています。大きな話題としては何とんでも、荒牧・昭和・桐生に続く本学4番目となる太田キャンパスの4月開校。新設される生産システム工学科は「ものづくり産業」の盛んな太田市で産官学の連携により、学理の実践を重視した社会的ニーズの高い学科です。また、2月に着工した重粒子線照射施設の建設も順調に進み、平成21年度から治療を開始する予定です。地域と世界に開かれた群馬大学が目指すべき方向は、まさに“Act locally, think globally!”。皆さんも応援してください。

国道17号、
DIPS.A ティップスA
は、オンデマンド印刷ショップです。



会社案内
パンフレット
DM
メニュー
ポスター
チラシ
プログラム
チケット
展示パネル
写真集
教養・句集・詩集
同人誌
小説
遺稿集
絵本
商業
自伝
カレンダー etc.

ティップス ニゴヨロはワンツーワンツー
TEL027-254-1212
FAX027-254-1227
〒371-0846 群馬県前橋市元郷社町67
http://www.asahi-p.co.jp/dips/ E-mail ap-dips@asahi-p.co.jp
営業時間 月曜から土曜日 午前9時～午後7時30分
朝日印刷工業株式会社

東和銀行に

①給与振込 ②公的年金振込 ③公共料金等の自動支払いを3項目以上 ④住宅ローンのご利用のいずれかをご指定いただくとお申し込みいただけます。

東和の新総合口座

「カタクリのはな」

多彩な1 ATM手数料無料

東和銀行ATMでの時間外手数料と他行ATMでの利用手数料が毎月合計利用回数10回まで無料です。(他行ATMで時間外にご利用の場合、他行所定の時間外手数料が別途必要となります。)

多彩な2 振込手数料割引

当行キャッシュカード(普通預金)による

東和銀行ATMでの振替振込が50円割引になります。

多彩な3 預金金利優遇

普通預金金利と300万円以上で期間1年以上の定期預金金利を優遇します。

セブン銀行ATMで東和の新総合口座「カタクリのはな」をお使いの場合、



年中無休
8:00~21:00までは
ご利用手数料0円



セブン銀行ATMは年中無休。8:00~23:00(12月31日~1月3日は8:00~21:00)まで東和の普通預金キャッシュカードでのお預入れとお引出しの手数料を優遇いたします。(ただし、1ヶ月の東和銀行ATMと他行ATMでのご利用回数の合計10回まで)

※東和の貯蓄預金キャッシュカードでもお預入れとお引出しができますが、「カタクリのはな」の優遇手数料は適用いたしません。

※セブン銀行ATMで東和の普通預金キャッシュカードをご利用の場合、21:00~23:00まではご利用手数料105円がかかります。

ふ れ あ い バ ン ク

TOWA 東和銀行

(2007年10月1日現在)